

### 3. 事業（調査研究）の実施

#### (1) 運営体制

本部が記載（施設は記入不要）

#### (2) 自然体験活動指導者養成研修会の実施

※標記事業のみ記入◎1行に1回分の研修会を記入してください。

期 日 (期 間)	養成種別 (全体・補助)	会場 都道府県	会場（施設）名	養成人数
平成22年 9月19日（土） ～9月22日（火）	全 体	山口県	国立山口徳地青少年自然の家	17名
平成23年 2月16日（火） ～2月19日（金）	全 体	山口県	国立山口徳地青少年自然の家	16名

期 日 (期 間)	養成種別 (全体・補助)	会場 都道府県	会場（施設）名	養成人数
平成22年 9月19日（土）	補 助	山口県	国立山口徳地青少年自然の家	4名
平成23年 2月16日（火）	補 助	山口県	国立山口徳地青少年自然の家	1名

◎養成カリキュラムを修了した人数を記入してください。

◎養成する指導者（全体指導者と補助指導者）別にご記入ください。

#### (3) 事前研修会（スタッフ研修）等の実施

該当なし

#### (4) 体験活動（調査研究）等の実施

該当なし

#### (5) 各体験活動（養成研修会）の概要

◎（2）（3）で記載された日程について、スケジュールや指導者等を具体的にご記入ください。

【全体指導者養成研修会記載例】第1回

日時	項目	活動名・講師	活動内容等
平成21年 9月19日（土） 10:30～12:30	体験活動の 指導法	【実習】「体験活動の指導法 Ⅰ」 国立山口徳地青少年自然の家 主任企画指導専門職 中村 慶治	体験学習法の実習を通して諸 活動の基盤となる人間関係づ くり手法を実習から学んだ。

平成 21 年 9 月 19 日 (土) 13:30~15:30	体験活動の 意義	【講義】「体験活動の意義」 山口県立十種ヶ峰 青少年野外活動センター 所長 木橋 悦二 氏	児童の発達段階を踏まえなが ら長期宿泊活動を実施するこ との意義について講義を行っ た。
平成 21 年 9 月 19 日 (土) 15:45~17:45	教育課程 との関連	【講義】「教育課程との関連」 国立山口徳地青少年自然の家 次長 小林 道正	学習指導要領における自然体 験活動の必要性と指導者の果 たすべき役割及び、実施上の留 意点について講義を行った。
平成 21 年 9 月 20 日 (日) 9:00~11:00	自然体験 活動の技術	【実習：基本コース】 「体験活動の技術Ⅰ」 山口県キャンプ協会 副理事 高田 和宜 氏	野営泊についての基本的な知 識と技術について講義・実習を 行った。
平成 21 年 9 月 20 日 (日) 9:30~12:00	体験活動の 指導法	【講義・実習：発展コース】 「体験学習の指導法応用Ⅰ」 (株)PAJ トレーナー 門田 卓志 氏	体験学習サイクルを基底に据 えた指導法を発展・応用的に学 び、スキルアップを図る講義・ 実習を行った。
平成 21 年 9 月 20 日 (日) 11:00~14:00	自然体験 活動の技術	【実習：基本コース】 「体験活動の技術Ⅱ」 山口県キャンプ協会 副理事 高田 和宜 氏	野外炊飯についての基本的な 知識と技術について講義・実習 を行った。
平成 21 年 9 月 20 日 (日) 15:00~17:00	体験活動の 指導法	【実習：基本コース】 「体験活動の指導法Ⅱ」 国立山口徳地青少年自然の家 主任企画指導専門職 中村 慶治	体験学習法を踏まえ、グルーブ ワークの基礎を体験的に学ぶ とともに、信頼関係の構築や協 調性の強化、課題解決等の実習 を行った。
平成 21 年 9 月 20 日 (日) 13:00~16:30	体験活動の 指導法	【講義・実習：発展コース】 「体験学習の指導法応用Ⅱ」 (株)PAJ トレーナー 門田 卓志 氏	体験活動を内面化する手法を 効果的に活用するためにプロ グラミングと連動させ、体験学 習法の応用を図る講義・実習を 行った。
平成 21 年 9 月 20 日 (日) 18:30~20:30	体験活動の 指導法	【実習】 「体験活動の指導法Ⅲ」 国立山口徳地青少年自然の家 主任企画指導専門職 中村 慶治	体験活動を内面化する手法に ついて実習を行った。
平成 21 年 9 月 21 日 (月) 9:00~12:00	プログラ ムの企画立案	【実習】「活動プログラムの 企画立案Ⅰ」 山口県キャンプ協会 副理事 高田 和宜 氏	教育過程に即してプログラム 事例検討を実施し、プログラム 立案についての講義・実習を行 った。
平成 21 年 9 月 21 日 (月) 14:30~16:30	プログラ ムの企画立案	【実習】「活動プログラムの 企画立案Ⅱ」 山口県キャンプ協会 副理事 高田 和宜 氏	グループに分かれて、教育課程 に即したプログラムを企画・作 成し、相互プレゼンテーション を行った。
平成 21 年 9 月 21 日 (月) 18:30~20:30	安全管理	【講義・実習】「安全Ⅰ： 安全管理と事故対応」 企画指導専門職 杉本 克之	安全管理と事故対応について、 実際に起こった事例を検討し ながら、防止や対処方法等につ いての講義・実習を行った。
平成 21 年 9 月 22 日 (火) 9:00~12:00	安全管理	【実習】「安全Ⅱ：救命救急法」 防府市消防本部徳地分署	AEDの使用方法等を含む救 命救急法の実習を行った。

平成 21 年 9 月 22 日 (火) 13:00~14:00	体験活動の 指導法	【実習】 「体験活動の指導法Ⅳ」 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職 杉本 克之	研修全体のふりかえりを行い、 参加者の今後の活動への意識 化を図った。
--	--------------	---	---

【全体指導者養成研修記載例】 第 2 回

日時	項目	活動名・講師	活動内容等
平成 22 年 2 月 16 日 (火) 10:30~12:30	体験活動の 指導法	【実習】 「体験活動の指導法Ⅰ」 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職 杉本 克之	体験学習法の実習を通して諸 活動の基盤となる人間関係づ くり手法を実習から学んだ。
平成 22 年 2 月 16 日 (火) 13:30~15:30	体験活動の 意義	【講義】「体験活動の意義」 山口県立十種ヶ峰 青少年野外活動センター 所長 木橋 悦二 氏	児童の発達段階を踏まえなが ら長期宿泊活動を実施するこ との意義について講義を行っ た。
平成 22 年 2 月 16 日 (火) 15:45~17:45	教育課程 との関連	【講義】「教育課程との関連」 国立山口徳地青少年自然の家 次長 小林 道正	学習指導要領における自然体 験活動の必要性と指導者の果 たすべき役割及び、実施上の留 意点について講義を行った。
平成 22 年 2 月 17 日 (水) 9:00~11:00	自然体験 活動の技術	【実習】「体験活動の技術Ⅰ」 企画指導専門職 小河 泰史	野営泊についての基本的な知 識と技術について講義・実習を 行った。
平成 22 年 2 月 17 日 (水) 11:00~14:00	自然体験 活動の技術	【実習】「体験活動の技術Ⅱ」 企画指導専門職 小河 泰史	野外炊飯についての基本的な 知識と技術について講義・実習 を行った。
平成 22 年 2 月 17 日 (水) 15:00~17:00	体験活動の 指導法	【講義・実習】 「体験活動の指導法Ⅱ」 山口県教育庁社会教育・文化財課 社会教育主事 山本 豊三 氏	体験学習法を踏まえ、グループ ワークの基礎を体験的に学ぶ とともに、信頼関係の構築や協 調性の強化、課題解決等の講 義・実習を行った。
平成 22 年 2 月 17 日 (水) 18:30~20:30	体験活動の 指導法	【実習】 「体験活動の指導法Ⅲ」 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職 杉本 克之	体験活動を内面化する手法に ついて実習を行った。
平成 22 年 2 月 18 日 (木) 9:30~12:00	プログラムの 企画立案	【講義・実習：基本コース】 「活動プログラムの企画立案Ⅰ」 人間科学研究所 所長 志賀 誠治 氏	教育過程に即してプログラム 事例検討を実施し、プログラム 立案についての講義・実習を行 った。
平成 22 年 2 月 18 日 (木) 9:30~12:00	プログラムの 企画立案	【講義・実習：発展コース】 「企画立案の発展Ⅰ」 財団法人キープ協会 事業課長 増田 直広 氏	グループに分かれて、教育過程 に即したプログラムを企画・作 成し、相互プレゼンテーション を行った。
平成 22 年 2 月 18 日 (木) 14:00~16:30	プログラムの 企画立案	【講義・実習：基本コース】 「活動プログラムの企画立案Ⅱ」 人間科学研究所 所長 志賀 誠治 氏	グループに分かれて、教育過程 に即したプログラムを企画・作 成し、相互プレゼンテーション を行った。

平成 22 年 2 月 18 日 (木) 14:00～16:30	プログラムの 企画立案	【講義・実習：発展コース】 「企画立案の発展Ⅱ」 財団法人キープ協会 事業課長 増田 直広 氏	プレゼンテーションの内容を 踏まえ、より教育効果の高まる プログラムについて講義・実習 を行った。
平成 22 年 2 月 18 日 (木) 18:30～20:30	安全管理	【講義・実習】「安全 1： 安全管理と事故対応」 企画指導専門職 杉本 克之	安全管理と事故対応について、 実際に起こった事例を検討し ながら、防止や対処方法等につ いての講義・実習を行った。
平成 22 年 2 月 19 日 (金) 9:00～12:00	安全管理	【実習】「安全 2:救命救急法」 防府市消防本部徳地分署	AED の使用方法等を含む救 命救急法の実習を行った。
平成 22 年 2 月 19 日 (金) 13:00～14:00	体験活動の 指導法	【実習】 「体験活動の指導法Ⅳ」 国立山口徳地青少年自然の家 企画指導専門職 杉本 克之	研修全体のふりかえりを行い、 参加者の今後の活動への意識 化を図った。

#### 4. 安全への配慮

- ①野外実習については、実際の活動を試行的に実施するとともに、直前に活動場所の実地踏査を行う。
- ②非常時や緊急時に対応するための連絡体制や緊急処置体制を整備する。
- ③スタッフ間で安全への配慮事項について共通理解を図る。
- ④参加者に対しては、傷害保険への加入を義務化するとともに、緊急連絡先の他、既往症・常用薬の服用・アレルギー体質の有無などの身体的配慮を事前に把握する。

↑上記以外に行ったことがありましたら、青色の文字で上記枠の中に追加してください。

#### 5. 事業参加者の募集方法

- ①機構の統一HPや各施設のHPに研修会情報を掲載する。
- ②本部においては全施設の研修会一覧を掲載した案内ちらしを作成し関係機関に広く配布するとともに、各施設においては個別に関係機関への広報を行う。
- ③特に、放課後子どもプランや学校地域支援本部事業などで活動する者への広報を行う。
- ④新聞やテレビ等のマスコミに広報を依頼する。
- ⑤公立の青少年教育施設に直接訪問し、職員への参加の呼びかけを行う。

## 6. 事業参加者に及ぼす効果の検証方法・結果

事業効果を測定するために、第1回参加者21名、第2回参加者20名に国立青少年教育振興機構から提示された直後のアンケートを基に事業効果の検証を行った。以下は、その結果である。

### (1) 直後アンケートの結果

研修会全体を通して満足度については、第1回参加者の「満足」と答えた方が81%、「やや満足」と答えた方が19%であった。第2回については、「満足」が68%、「やや満足」が32%であった。このことから、第1回、第2回とも参加者の満足度は、高かったと考える。この結果は、参加者のニーズに幅広く対応できるように「基本コース」「発展コース」を設けた成果であると考えられる。また、ブラッシュアップやスキルアップを望まれている指導者が、参加出来やすい状況をつくるため、日帰りで受講できるようにプログラムの工夫を加えたことも成果として上げることができる。

広報活動についても、「基本」「発展」のコースを設置したことを踏まえ、昨年度受講者への働きかけを行うとともに、山口県内及び、近隣県の公立青少年教育施設、教育関係機関に直接訪問し、参加の働きかけを行ったことで、幅広い方面からの参加者を募ることができ、それにより、参加者間での「学び」の深化を促進することができた。

### (2) 参加者の自由記述

#### 【研修会について気付いたこと、提案、改善点、感想】

- ◇技術的なもの、安全管理など初心にかえり、基本を確認することができてよかったと思う。プログラム企画立案については、学校側とどう合意形成しながら、どこまで任せてもらえるのかと、考えていくべき課題が多いように思った。
- ◇とても有意義で学びや発見が多い場を作っていただけてとても感謝しています。子どものことが大好きだと熱意を持って集まった人ばかりで刺激と感動を得ることができました。これを私の中でとどめるだけではなく、周りの人に影響を与えられるように成長していきたいです。
- ◇内容の深さ、複数回受講することによって新たに気づく内容があり、この研修会の深さが分かった。
- ◇参加者全員が、レベルの高い集団でお互いの「思い」や「意見」を出し合うことができて非常に参考になった。
- ◇いろいろな立場の人が参加していて交流できたことが何よりも大切だと感じました。ただのプランニング指導のためのHow toを学ぶのみならず、経験等を共有化出来ることで価値観についても学べる良い機会だった。
- ◇今回いろいろな立場の人とたくさんのお話や活動をしたことや講義をきくことによって、改めて今までの自分の活動や自分自身についてまた考えることができました。

#### 【指導するにあたって必要な研修内容】

- ◇「体験を通じて学ぶ教科学習」の具体的なプログラムを子どもの立場になって追体験する合宿。
- ◇学校側とのすりあわせができる研修が必要だと思います。
- ◇実際のプログラムを見学またはアシスタントとして参加できるような機会。
- ◇山口徳地が実施されたモデル事業「自然とコラボ」のように、模擬的に資格を取得された全体指導者、補助指導者が参画したモデル事業をしてみたい。
- ◇まだ理論的な部分や基本技術を学んだ段階なので、それを活かして実践するためには、“模擬授業”的な研修があると助かります。「学級」は難しいですが、「自然とコラボ」のような実際に子供を前にした企画に参加することができればと思います。
- ◇研修よりも今は実践が必要だと感じているので、研修という形におきかえるなら、ひたすらロールプレイ、模擬の企画立案等のタイプが必要だと思う。
- ◇発展コースの充実、2回目、3回目の受講する人のためのほどよいスキルアップ。
- ◇経験によってカバーできる部分（野炊など）とできない部分（概念的な部分）があるので、今回の基本・発展コースのような住み分けが出来ればもっと良いと思った。

## 7. 事業（調査研究）の成果の評価方法

◎事業（調査研究）の成果や課題をどのように抽出し、評価したのか及びその結果をご記入ください。

※フォーラム等での事例発表など事業（調査研究）成果の普及・啓発についても記入すること。

### (1) 評価方法

講師、国立山口徳地青少年自然の家所長、次長及び、担当企画指導専門職による実施後のミーティングを行い、直後アンケートの結果を基に事業評価を行った。

### (2) 成果

第1, 2回とも「基本コース」「発展コース」を設定するとともに、設定する講義内容も変更を加えたことにより、参加者の選択肢を広げることができた。これにより、参加者は、自らの経験値やスキルに合わせ、研修会に参加できる状況をつくり出すことができた。

また参加者が、学びあった内容を参加者間で、自然とディスカッションしている場面も見られ、交流しながら「学びの深化」を図る成果も見られた。

### (3) 課題

参加者は、指導者の資格を得たことにより、大変意欲的になっているが、すぐに実践に移せる機会や場面が、あまりにも少ないことが大きな課題であると考え。これは、今後の指導者養成研修会にもマイナスの影響を与える可能性があるだけに、強い危機感を感じている。この点を踏まえ、全体指導者・補助指導者が活躍できる場の提供が行えるよう、国立山口徳地青少年自然の家がコーディネート役となり、県内小学校への働きかけを行う等の実働を促す取り組みを推進したい。